



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和3年12月発行
第8号

前を向いて……

校長 植松 研吾

早いもので、本年度も三分の二が経過しました。「今できることをやる」という思いのもと、校地内でのオール丹那自給自足DAY、日帰りの修学旅行I、運動場での持久走記録会等を実施し、子供たちの挑戦する姿とはじける笑顔を何度も見ることができました。

持久走記録会で自分の目標に向かって走る子供たちの姿を見て、思い出したことがあります。それは、人間の足の筋肉のことです。私が以前お世話になった鍼灸師から伺ったことですが、人間の足の筋肉には次の三種類があるそうです。

- | |
|---------------------------------------|
| ・短距離走に向いている…瞬発的な動きに長け、短時間で加速することができる。 |
| ・長距離走に向いている…持久力があり、長時間走ることができる。 |
| ・両方の走りに向いている…短距離走も長距離走も優れている。 |

子供の頃の私は、速く走るのが大の苦手でした。特に持久走が苦手で、小・中・高等学校のマラソン大会ではいつも後ろの方を走っていました。さらに、運動会や体育祭の徒競走で1位になったことも、学級対抗リレーの選手に選ばれたこともありませんでした。

そんな私には、「将来、小学校教員になりたい」という夢がありました。小学校教員は体育の授業も担当するので、高校生3年の時に「速く走れるようになる」ことを自分に課しました。短距離走も長距離走も得意な知人から「長距離走が苦手でも、鍛えれば得意になる」というアドバイスを受け、帰宅後に30分間程度走ることになりました。できる限り継続しましたが、なかなか成果が表れず、大学進学とともに走ることをやめてしまいました。

大学卒業後、念願が叶って私は小学校教員になりました。それから間もなく、私の足を触診した前述の鍼灸師から「あなたの足の筋肉は、短距離走に向いていますね」と言われたのです。「短距離走ならば……」と思い、体育の授業等で子供たちと一緒に走ってみることで随分と遅咲きではありますが、「自分は短距離走に向いている」ことを実感しました。当時の教え子に会うと、「先生は、走るのが速かったね」と言われるので、必ず「短距離だけね」と付け加えるようにしています。

速く走るためには足以外の筋肉や心肺機能を鍛える必要がありますが、鍼灸師の言葉(暗示?)によって自分の足の筋肉が短距離走に向いていることを知り、それがきっかけで速く走ることに對して前を向くようになったと思っています。

さて、先月から来年度の教育課程編成が始まりました。現在、コロナ禍が以前よりも落ち着いてきているので、令和元年度までの教育活動をどこまで復活させたらよいのかを検討しています。児童・保護者・教職員による学校評価アンケート結果が、その判断材料の一つになります。しかし、全てを受け入れることはできません。後ろを振り返りつつも、前を向いて進んでいきたいと思えます。御理解と御協力をよろしく願いいたします。

実りの秋は楽しい行事が盛りだくさん！力を付けて寒い冬を乗り越えよう



1・2年生「乗り物探検」。協力して町バス、伊豆箱根鉄道と乗り継いで楽寿園まで秋見つけに出掛けました。



6年生待望の「修学旅行」。日本平動物園、ホテルでのテーブルマナーなど桑村小の友達とも交流できました。



地域の方の力を借りて自分たちで育てた野菜や米に感謝しながら食した3rd ミッション「自給自足 DAY」。



PTA主催「切り絵教室」。水口千令先生の技に感動。参加者も木や富士山に挑戦しました。心癒されるひとときでした。切り絵は集中力が身に付くそうです！



3年生「社会科見学」。フードストアあおきと丹那牛乳工場に出かけ、普段は入ることのできない裏側を見て学びました。貴重な体験学習でした。



3・4年生「動物愛護教室」。5匹の犬が来校し、命の重みや大切さについて考えました。初めて触れ合えた感動は一生の宝物です。

新型コロナの感染状況が好転したため、放課後の運動場開放が再開しました。今まで我慢を強いられてきた子供たちの嬉しそうな声が響き渡っています。

自由に遊べる時間と空間があることは幸せなことだと実感しました。



Tanna Dream School Project

～いいな！丹那～



令和5年度に創立150周年を迎える伝統ある丹那小学校を未来に引き継いでいくために、もっともっと学校の魅力を高めようというプロジェクトが始動しました。保護者の皆様に向けて説明会を行い、丹那小の現状と今後の課題について御理解いただき、オール丹那で子供たちのために力を合わせようという一歩を踏み出しました。

今後は、丹那小学区にお住まいの地域の皆様にもこの取組を知っていただけるように様々な機会を設けていきたいと思えます。学校とPTA、地域が力強くタッグを組んでいきます。

体罰及びセクシャルハラスメント調査のお願い

学校教育法に、「教員は、児童生徒に体罰を加えてはならない」と明記されています。本校でもいかなるときでも子供たちに肉体的苦痛を与えることは絶対にしてはいけないと全教職員が自覚し、教育活動にあたっているところです。また、わいせつ行為等の人権に係わる事案も含めて、もし、万が一お子さんから行き過ぎた指導が懸念されるような情報がありましたら、校長又は教頭まで御連絡をお願いいたします。

丹那小学校 ☎ 055-974-0024